

令和6年度 第2回栗東市市民参画等推進委員会

- 令和6年10月24日（火）10：00～12：00
- 場所 コミュニティセンター大宝東 大会議室
- 出席者 新川委員長、高野副委員長、村田委員、石橋委員、太田委員、池田委員、宮川委員、幡委員、中村委員、西川委員、平岡委員
市民部：西村市民部長
市民部自治振興課：濱田課長、松田係長、谷村主査、杉山主事補
（株）しがぎん経済文化センター：田中部長

議事記録（概要）

1. 開会 進行：自治振興課長

2. あいさつ

（委員長）

本市の参画と協働は、参画と協働によるまちづくり条例が制定され、この条例に基づき、参画と協働によるまちづくりの推進のための計画を策定し、それに基づいて進めている。元気創造まちづくり事業、未来へつなぐ市民活動応援事業、また協働事業提案制度等々着実に進められてきているところである。一方で、市民の元気に繋がっているか、あるいは市民活動が熱心に進められるよう広がっているか、こういったところはまだまだ課題もある。このあたり、皆さんのお知恵をいただきながら進めていければと思う。それ以上に、今年度は先ほど紹介した参画と協働によるまちづくりの推進計画、これが最終年度を迎えており、これの改訂ということで、いよいよ次年度以降、どういう計画を立てて進めていくのか、こうした議論を始めなければならない。皆さんと一緒に、この栗東市の参画と協働によるまちづくり、これをどんな形で進めていけるのか知恵を絞れればと思う。今日も限られた時間だが、皆さんと一緒に良い議論ができればと思う。

（市民部長）

本日は本年度第2回目となる市民参画等推進委員会にご出席いただき感謝申し上げます。日頃は市民参画と協働によるまちづくりを推進するために、格段のご支援、協力を賜り厚くお礼申し上げます。

現在、市において、第6次総合計画の後期5ヶ年の計画を策定しているところである。合わせて人口ビジョン、少子高齢化に向けた対策になるが、人口ビジョンを含めたデジタル田園都市総合戦略を同時に策定している。本日の議題にある行動計画は、今後の栗東市の未来を大きく左右すると考えている。どうか、従来の考えにとらわれない画期的な行動計画に

なるよう、お力添えをお願いし挨拶とさせていただきます。

3. 栗東市市民参画等推進委員会の公開について

4. 報告事項

○令和7年度実施予定事業報告について・・・＜資料1＞

- ・元気創造まちづくり事業
- ・未来へつなぐ市民活動応援事業
- ・協働事業提案制度

（委員長）

三つの種類の次年度事業、その事業の実施予定団体の紹介をいただいた。それぞれ特色のある事業だが、各委員から次年度事業予定者、また活動について質問や意見をいただきたい。

（委員）

事務局に確認だが、「未来へつなぐ市民活動応援事業」の今年度の寄付実績において、9月末時点ですべての団体が0円となっている。カッコ書きで「令和7年3月31日に確定」と記載されているので、すべてが0円となる訳ではないとの理解でよいのか。

（事務局）

その通りである。9月末時点の集計となっており、現時点でふるさと納税額が0円ということである。期間が3月末までのふるさと納税は、年末に多く実施される。まだ募集は終わっていないので今後も寄付金がゼロということではない。

（委員）

今の時点では0円と言うことか。

（事務局）

その通りである。ただ9月末時点では0円だったが、10月8日時点で、1件「子育てサロン CoCo 愛」で実績がある。例年の傾向を見ると、10月、11月とだんだん増えてくる。

（委員長）

ふるさと納税は税制優遇措置があり、確定申告も必要なので12月が多くなる傾向である。

（委員）

今年の後半になってから寄付額が増えるのは、制度の特性上致し方ないが、団体側は活動

資金が、申請してから時間が経過しないと入ってこない、または入ってくるかもわからないので、資金計画を立てづらい。早めに寄付を集められる仕掛け、仕組みが必要だ。市として、寄付金集めに対し、具体的な支援はどのようなことをしているのか。

(事務局)

基本的に団体自身が PR 活動をしていただく。依頼があれば、市役所 1 階の掲示板に広告のポスターを掲示する方法や、自治振興課が発行している「まちづくり通信」で活動 PR を行う。団体から依頼があれば対応している。

(委員)

寄付をどのように集めるかノウハウがないとの市民団体の課題をよく聞く。先日も、滋賀県のある中間支援組織の意見交換会に出席したが、そこでも同じ話が出ていた。もう少し寄付集めの積極的な支援を考えていく必要がある。私は、委員が代表理事をされているまちづくりネット東近江で審査委員をしているが、中間支援組織が寄付集めの支援をする制度がある。採択された団体は寄付控除を得られる。中間支援組織の職員が寄付集めや、公募資料作成などの伴走支援をしている。その結果 1 年間で 900 万円の寄付が寄せられた。このような伴走支援が必要である。

(委員)

委員が出席された中間支援組織の意見交換会に私も出席した。その中で滋賀県内の助成金制度一覧を用いて話をされたが、そこに、栗東市がなかったので、私は「あります」と言いました。ただ、元気創造まちづくり事業の助成金、協働事業提案制度の助成金だけ伝えて、未来へつなぐ市民活動応援事業は忘れてしまった。つまり、他市町の人に知られていない事がわかった。栗東市の取り組みや、他市町からでも寄付ができる事を、関係者はアピールいただきたい。

(委員長)

未来へつなぐ市民活動応援事業は、ふるさと納税を使った仕組みで、全国的にも先進的に栗東市で導入された。まだ知られていない事実がはっきりしたので、この制度の仕組み自体を PR しないといけない。また、この仕組みを活用する団体への応援、実際に寄付の集め方をどのようにフォローしていくのか。この辺りもまちづくり推進条例行動計画づくりとも関わって検討しないといけない。また、皆さんからも意見をいただきたい。

(委員)

寄付のシステムを簡単に説明いただきたい。

(事務局)

ふるさと納税による寄付の方法は、WEBサイトの「ふるさとチョイス」から行う。ふるさと納税の項目があり、「未来へつなぐ市民活動応援事業」を選び、「どの団体へ寄付しますか」との選択項目が出てくるので、団体を選ぶと、その団体に寄付金が入る。ただ、1万円寄付したから全額団体に入るわけではなく、返礼品ありの場合は、事務手数料を引いて半額が補助金として入る、返礼品なしの場合だと、2割が事務手数料で8割が団体に入る仕組みである。

(委員)

栗東市民が栗東市の団体に寄付すると返礼品がないと思うが、寄付はできるか。

(事務局)

寄付自体はできるが返礼品がもらえない。

(委員)

栗東市のホームページから手続きができるのか。

(事務局)

栗東市のホームページから、ふるさと納税にリンクするバナーがあり、「ふるさとチョイス」を選ぶことで可能。楽天など、他のふるさと納税サイトではできないので注意が必要。

(委員長)

特に未来へつなぐ市民活動応援事業は、仕組みをPRし、わかりやすく多くの方にご理解いただく事が課題である。一方で、各団体がより多くの寄付を集められる支援の仕方も重要な課題である。この辺りは、次年度の計画づくりの中で議論したい。協働事業提案制度は、残念ながら自由型の応募はなく、連携支援型で現在進行中のものが一つあるが、寂しい状況である。これも今後に向けてどのように活発にしていくか、事業は今後の栗東市を大きく発展させる大事な種である。このあたりも皆さんから意見をいただき、充実した制度になるよう検討したい。

それでは報告事項の一番目、令和7年度実施の予定事業報告については、いただいた意見を踏まえて、次年度以降の事業の参考にさせていただき事で終わりたいが、よろしいか。(異論なし) それでは報告事項の一番目は以上にさせていただきます。

○栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画骨子(案)について・・・
<資料2>

(委員長)

次期行動計画の骨子について説明いただいた。今日の段階では大枠をご紹介いただいたが、これから具体的に中身を詰めないといけない。各委員から意見、あるいは質問などもしただければと思う。

(委員)

KPI と目標指標は同じ意味であり、KPI より目標指標にしたほうがわかりやすい。シビックプライドも意味がよくわからない。12 ページ担い手づくりの④コーディネーターの役割を担える職員の配置や育成について、予算を確保していると理解してよいか。14 ページ担い手づくりのボランティアへのポイント制度の活用促進とあるが、具体的にどのようなポイントか。

(事務局)

KPI と目標指標がわかりにくい点だが、現行計画は成果指標と記載している。目標指標をメインで出して、次回までに変更する。またシビックプライド等の用語は、現在の骨子にもあるが、最終ページに用語説明があるので、難しい単語や、聞き慣れない単語に関しては記載する。次にコーディネーターの役割を担える職員配置だが、栗東市にはそういった職員があまりいない状況である。現在行っているのは職員研修である。例えば他市町の協働に関する参考事例を職員と共有し、協働に対する意識の向上を図り、最終的にコーディネーターの役割を担う職員を育成、配置して活動してもらう事を目標に追加した。予算化は、まだ議論ができておらず確定していない。ボランティアへのポイント制度は社協での仕組みである。

(委員)

ポイント制度について社協から説明する。市役所の所管は長寿福祉課になる。ボランティアをすることでポイントがもらえる仕組みである。例えば、サロンのスタッフ、個人で言うと単身の高齢者のゴミ出しとか、そういう生活の支援や地域づくりのボランティアをしている方にポイントがつく制度がある。ポイントは平和堂の商品券や、作業所の作品を購入できるなど、選べるようになっている。ただ課題もある。例えば、誰がポイントを付与するかが曖昧で、精査が必要という意見がある。

ポイント制度とは異なるが、続きで意見を述べさせてもらう。シビックプライドとは何なのか。

(事務局)

シビックプライドとは、郷土愛、地元を愛する心、そういうものをシビックプライドと表現している。

(委員長)

地域への誇り、自分たちのまち、素晴らしいまちと市民が思う街を作っていきたい、シビックプライドでこれを確立していこうというもの。日本で最近言われ始めているが、米国では、市民がシビックプライドを持っているかどうかで、まちの発展や活力が大きく違ってくると言われている。シビックプライドを持って市民が積極的に活動をする、あるいは豊かな市民生活を送っている。やはり、これからの栗東市の発展で、シビックプライドを用いて、まちづくりの大きな方向として、そして、市民協働の具体的な方策の一つ、環境作りの一つにも位置づけると理解している。

(委員)

14 ページ現計画で推進する施策の内容追加や削除の検討だが、担い手づくりのまちづくり活動の担い手でボランティア観光ガイドが入れてある。ここ部分は削除しないで欲しい。

それと、栗東 100 歳大学をどこかに入れてはどうか。今、第 8 期で 25 人ぐらい在籍しているが、そこで「ふるさとチョイス」の PR をし、ボランティア活動団体に寄付できるという PR をしたらいい。

(事務局)

ふるさと納税の件は、行政も PR ができるので、担当課と協力して情報発信に努める。

(委員)

環境づくり、担い手づくりの中に講座を入れていただきたい。みんなが楽しめる講座を連続して行い、そこに集う人が仲間を作り、そこから何かやってみようとなればよい。100 歳大学もその一つだし、くりちゃん絵手紙も何かの講座で集まった方が結成したと思う。最初は趣味でいいので、みんなが集まるうちに、少し困ったことを解決しようとなればよいので、「地域のために活動して欲しい」では、みんな来ないと思う。事例として委員が所属する地進協の取り組みについて、委員から紹介いただきたい。

(委員)

委員の発言内容は具体的なことで、この計画での議論とは違うと思うが、地域の中で何かをやりたいというのは、意欲を持っている人がやることもあるが、そうでない人もやっているうちに進むことがあるので、いろんな活動があれば、いろんな人が出てくると話していたので、それを発言されたと思う。ただ、行政の仕掛けとして計画に入れづらい。なので、市民活動の中で念頭に置いてやるといい。

続けて意見を述べさせていただく。12 ページ担い手づくりで、コーディネーターの役割を担う職員の配置や育成の項目がある。これは大事なことだが、コーディネーターの役割を

担える職員ではなく、職員が全てコーディネーター役になるイメージ。要するに、職員は異動するので、いろんな部署、どの分野でも、市民ときちんと話をし、コーディネートして物事を進める職員が必要。コーディネーター役が必要じゃない。その点を盛り込んでもらいたい。もう一つは、中間支援だが、中間支援は降って湧いて出てこないし、何もしないのに生まれてくることは絶対ない。栗東市の中で中間支援を大事にするなら、具体的にイメージしないと絶対できない。先ほど委員から伴走支援の話があったが、行政職員ではなかなか立場として難しい。だから中間支援が必要だが、今の状況では生まれにくい。本当に作るなら、ある程度の期間を見ながら、人や組織のあり方を見直していかないといけない。そういう思いならば、具体的なストーリーを描いておく必要がある。

（事務局）

コーディネーターは職員全員が本来の姿かもしれないが、急に転換するのは難しい。まず、コーディネーターを担える職員を育成していく。外部からスキルのある方を招いて育成することを考えている。

中間支援組織は大きな課題と認識している。ここ1、2年で何かできるものではなく、中長期的に考えていく。また、この計画においてタイムスケジュールを示したいが、予算もあり、具体的に示すのは難しい。

（副委員長）

前回の委員会で中間支援組織について質問した。栗東市はボランティアセンターとコミュニティセンターがその役割を担っているとの回答だった。中間支援組織の整備は、他の自治体でも課題になっている。他市を調べたら、中間支援組織の役割についての記述があったので紹介する。その役割は情報の収集・提供機能、人材育成機能、相談・助言機能、立ち上げ支援機能、コーディネート機能、ネットワーク支援機能、調査・研究機能、評価機能である。これらを、ボラセンとコミセンができていないか、できる体制にあるか、人員や予算も含め、この機能を持つ中間支援組織をどう築くか。これをやらないと広がらない。5年前の計画に中間組織の育成と書いている。事務局から時間がかかり大変ということだが、真剣に考えないと、行動計画は絵に描いた餅になりかねない。自治振興課が担当だが、横断的な組織を作っても協働のまちづくり計画をどのように進めるか考えるべき。最優先でやらないといけない。この委員会は、条例の推進について全責任を担っていると思う。そういった意味で、中間支援組織の整備、庁舎内の横断的組織づくりを考えてほしい。

（委員）

条例や行動計画は非常に大事なことだ。中間支援組織としてのコミセンだが、私は地域振興協議会の役をしており、毎日のようにコミセンと関わっている。コミセンの存在は大事である。人が人を動かし、また、それで人が増えていくのが基本だ。

副委員長が発言されたように、現実のコミセンは改善しなくてはいけないことがある。例えば、コンピュータ一つにしても、市役所のコンピュータは改善されて便利になったが、同じような条件でコミセンが使えているか。コミセンでは同じように利用できないと聞いた。コミセン職員は行事のたびに右往左往しており、市役所職員の研修も兼ねてコミセンに異動させ、コミセン業務を経験することが重要だと思う。一番身近に市民と接する所で、一番身近な核となる組織でもある。事務的な業務を行う環境も整え、課題を解決していただきたい。現在、パソコンなんて当たり前に持っているし、コミセンを利用する方も LAN が使える設備があれば、皆さんと喋りながらでもパソコン使ってやろうかとなる。経費を伴うが、目に見えない部分の整備も併せてやっていただきたい。5 年前から動いてないのは、そういう要素もある。一度コミセンの状況をよく調査し、改善していただきたい。

(事務局)

コミセンは、9 月から市内 LAN を使うようになり、職員のパソコンと同じように使えるシステム変更がされた。ただ、今までコミセンがインターネット回線を個別に引いていたが、システム変更で仮想空間を利用してインターネットを閲覧する事となる。個人情報や、ウイルス感染を防ぐためのシステムである。そのためアカウントがコミセンに一つしかないので、インターネットを見る場合は、その一つのアカウントでしか対応できない。アカウントを増やす予算化ができていないので、来年度に向け情報政策課で精査している。現在の対応はこの点で支障が出ている。

中間支援組織について、コミセンは自治会を含めた地域の中間支援組織となっていくべきところだが、地振協の事業や、貸し館業務など、人数的な制約もあるなか、非常に多くの業務を担っている。先ほど副委員長からもあったが、中間支援組織の調査業務や、情報提供、情報共有、情報収集などを含め、そこまで手が回っていないのが実態である。人数的なことも含め、事務や事業の見直しなども必要と考える。

(委員)

骨子は絶妙な書き方をされている。進める気はあるが、何をやるのかはぼかした印象である。ただ委員からも中間支援組織が必要だと、これだけの意見が出たことは注視する必要がある。実際に、守山市が検討しており、甲賀市も箱物があるので、それをどう動かすかで検討している。東近江市は絶えず先頭を走っている。長浜市はいろいろあるが進めている。県内自治体で、かなりの自治体が中間支援組織の整備に動いている中、栗東市でも必要になってくる。もちろん計画に簡単には書けないが、委員会でこれだけ意見が出てきた点は、踏まえておく必要がある。

もう一点、計画は課題や問題があつて、それを解決するための施策に取り組むもの。現状認識、課題認識に対応する形で施策が出てくるので、この繋がりが読み取りづらい。栗東での市民活動、あるいは市民参画の現状認識というアンケートデータは盛り込まれるが、それ

らを行政や委員会が整理し、どう認識するのか。具体的に書き込む必要がある。特に前半の議論であった、市民活動支援の制度はあるが利用が伸びない、逆に減っている現状があり、残念ながら市民活動が活性化していない。何が問題・課題か、その現状認識を整理した上で、何が必要か。その中に中間支援組織が出てくる。この課題を解決するための施策が盛り込まれる対応関係が必要。このままだと、計画期間が終わって新しくしたと見えかねない。委員会の議論は、我々の意見を事務局が受け止め、行政対委員会になっているが、これをワークショップなどで議論を深め、現状を整理する機会も必要だ。我々も仕事が増えるが、議論を深め、認識を共有する機会が必要。その関連で前回の委員会で、市民の意見を取り入れるべきと発言した。なので、市民団体ヒアリングを補足資料に追加されたと思う。この辺も紹介いただき、検討いただきたい。

(事務局)

次の計画作成では、今までの計画の成果や、評価分析、課題、そこから次の計画を作っていくのが本来です。実際に評価とか、分析が細かく書けていない。ただ、総括として、市民団体への助成制度の情報不足であるとか、活動団体数が横ばいであるとか、市民活動団体数の構成において高齢化でなかなか後継者がいないと認識している。また、中間支援組織についても、今後の課題と認識している。次の計画はそこを盛り込んだ形で作成したい。また、その成果や評価についても、詳しく記載していく。

ワークショップはスケジュール的に難しいので、各委員から意見を頂戴し反映させていただく。

(副委員長)

具体的に現計画と変わったのはどこか。

(事務局)

変更した点は、4 ページ自治会・地域振興協議会の部分、10 ページ目指す姿の文言、11 ページ KPI 目標指標の三つの目標の変更、12 ページ体系図の環境づくり、担い手づくりそれぞれにシビックプライドと、担い手づくりにコーディネーター、13 ページ第 4 章の推進する政策、これは先ほどの議題にあった中間支援組織について、総合計画に基づいて変更した。

(副委員長)

KPI にボランティア団体の数はあるが、NPO 団体は入れないのか。入れる必要がないという判断なのか。

(事務局)

NPO 団体数は 6 ページに記載しているが目標には含めない。NPO 法人の数を増やすことに、市が関与出来ないからである。また、結果も NPO 法人数を把握して記載するだけになる。一方、ボランティア団体の登録数は、ボラセンとの連携で増やすことが出来る。NPO では難しいので目標に含めない。

(副委員長)

栗東市は他市に比べ NPO 法人数が極端に少ない。何か原因があると思う。この原因は何であると考えているか。増やすという考えがあるのか。NPO 法人が増えることは良いことと考えるが、同じ認識はあるか。

(委員)

この表では、NPO 団体数というのは、法人格をもつ NPO 法人という意味か。NPO は広い概念なので、数人で何かやっている団体も NPO です。ボランティア活動との仕分けも難しい。この書き方では誤解を生むので、法人数と記載したほうが良い。

(事務局)

NPO 団体数は法人数となっている。次期行動計画には法人数と記載する。

(委員)

14 ページ担い手づくりの「元気創造まちづくり実施団体との連携による担い手づくりの活用」とあるが、意味がわかりにくい。具体的にどういう意味か。

(事務局)

現在の行動計画では「元気創造まちづくり事業実施団体との連携による担い手の活用」であり修正する。作成ミスである。

(委員)

人を活用するという表現はいかがか。誰が人を活用するのか。担い手を活用するのではなく、担い手を増やしていく、担い手の活動を支援するといった表現にすべき。物とか資源を活用することと違い、人を活用するという表現は、協働とは全く違うイメージになる。

(事務局)

人を活用するというのは、失礼な表現であり修正する。

(委員)

資料の 2-12、13 で体系図、13、14 で今後の計画が載っているが、その間に、前の計画の

課題や評価をいれるとわかりやすくなる。

(委員長)

今日、示した計画骨子案は、これまで5年間の行動計画が客観的にどういうことをやってきたかを示しているが、そこで何が問題だったかの分析がないので、今後、示してもらいたい。その問題解決を、次の行動計画でしていく。枠組みは、環境や担い手や情報というのは大事な項目なので、この括りでまとめることは可能だが、そういう課題を踏まえ、これまで達成できなかったことを踏まえ、次の計画をどうするか、そこを整理いただきたい。各委員の意見にも合致する。

(委員)

14 ページ担い手づくり「市職員の理解促進とスキルアップを図る職員研修の実施」は素晴らしい。削除しないでもらいたい。

(委員)

協働に関連し、市の職員研修を担当している。ワークショップ形式で協働に関する企画や議論をして、すごく職員は積極的に受講している。ただ、課題は、学んでモチベーションも上がったが、実践できる場が業務の中にな点である。ファシリテーターの養成も関係するが、協働を実践できる場、機会を市役所内に設けていく仕組み、取り組みを考えていく必要がある。これ自体が研修の一環かもしれないが、実際に市民と協働する機会、取り組みする機会を考えていく必要があるの。この点も盛り込んでいただきたい。

(事務局)

今年度、昨年度と委員に研修をしていただいた。今年度は係長級をメインとした研修であった。研修を受けたときは、なるほどわかったとなるが、それを実践できる場がない、機会がないのも事実である。実例を用いて職員に周知していかないといけないので、広く情報を職員にも向けて発信していく。

(委員)

13 ページ中間支援組織の育成支援「ボランティア市民活動センターやコミュニティセンターなどの中間支援組織」とある。市民ボランティア市民活動センターは自覚していると思うが、コミュニティセンターは中間支援だと認識しているのか。このように記載するなら、コミュニティセンターの職員に対し、中間支援とはどういうことか、知識や技術を身につけ、こういう意識で日々の業務にあたれと研修をやる必要がある。コミュニティセンターの職員に「あなたたちは中間支援ですね」と聞いたら、「何ですか」みたいな感じだと思う。12、14 ページのところの担い手づくりの中に、コミュニティセンター職員の研修と

かがあるのは良い。

(委員長)

コミュニティセンターを中間支援の組織として機能させるなら、それだけの役割を自覚して、職員にもスキルアップをしてもらわないといけない。

(事務局)

地域の中間支援組織として機能はしているが、研修で改めて再認識をしてもらうという意味で大変意義がある。そこを踏まえて計画は考えていく。

(委員)

出席させていただき自分がスキルアップできている。しかし、難しい言葉をもう少し、わかりやすくしてもらいたい。今日は委員や委員がいろいろ教えてくれて勉強になった。

(委員)

ふるさと納税の制度で「子育てサロン CoCo 愛」と「シニア子育てサロンぽっけ」は5年やっているが、なかなかふるさと納税をしていただくのは難しいと思う。その工夫やアイデアをだして、やっている団体が、よかったと思えるようにする必要がある。一般に、ふるさと納税は返礼品が目当てだが、せっかく制度を作っているのだから考えないといけない。

(委員長)

次の計画ではもう少し具体的に、ふるさと納税型のまちづくり、寄付の集め方、それを支援するような参画、協働の行動計画を考えていく必要がある。そのあたり何か検討してもらいたい。

(副委員長)

計画の進捗が目に見えない。東近江の委員にお伺いしたい。計画の進捗がわからないと、非常に議論が抽象的になっており、何か良い方法はないか、委員の経験から教えてもらいたい。

(委員)

市民の活動なので、評価を出して、それが数値化され右肩上がりにはならない。生まれては無くなったの連続である。ただ、生まれて無くなるだけではなく、また、次に生まれてくることがあれば、数字は変わらないけれども、生まれたところがチャレンジしたのは成果になる。広い範囲の市民活動となると、そこかしこで起こっているので、その成果が目に見えないと思う。ただ、全体的に市民を見て、栗東市民はいつも楽しそうだとか、元気そうだとか、

何かいつもやっているという評価でいいと思う。計画として目標は必要だが、市民が近所の人とか、いろんな人と何かやっていて結構楽しいとか、お祭りでもいい、栗東市民はみんな頑張ってるよねと思い合っていればいい。数値目標もわかるが難しいです。

(委員)

会議に参加して、たくさん学びがある。「子育てサロン CoCo 愛」と「シニア子育てサロンぽっけ」で、シニアの方と関わりがある。頑張っておられる姿を見て、私がこの年代になったとき、これだけ頑張れるかと思う。まだまだ子育て世代だが、栗東市はサークルとかが、他市に比べると少ない。何かやりたい方はいるけれど。なので、大きい計画は難しいと感じるが、毎日の生活の中で何かできること、もう少しできることを考えて取り組めば、長い目で少し変わっていくと感じた。自分にできることを考えてやっていく。

(委員長)

大事なところであり、この行動計画自体は市民の活動が活発になることが狙いである。この計画が届いてない、そうした活動が見えにくいということであれば、計画そのものがあまりよくないことになるので、どういう市民の活動をこれから活発にしていくか、そのための参画や協働のあり方をどう進めていくかは、もう一工夫検討が必要である。

それでは骨子案を議論いただいたが、計画の趣旨等々大きな本市の市民参画と協働によるまちづくり条例の趣旨に沿った計画で、今回は総合計画も住み続けたい栗東という大きな目標がある。そのため、市民がもっと活発に地域で活動していく、それもさらに発展をしていく、そんな趣旨というのが明確になってきた。これからのまちづくり、本当に市民参画と協働というのが大事になってくる。一方で、現実には高齢化、あるいは少子化、さらには将来にわたる人口減少、加えて、もう既に起こっているが、地域のいろんな活動が、だんだん停滞をしている側面もある。このあたりを踏まえ、次の計画に繋げていかないと、本当に絵に描いた餅になる。現状分析をし、市民参画や協働を身近に感じ、そこに関わっていかうとする環境が不足しているかもしれないという認識、あるいはそれを積極的になって行う担い手が、まだまだ足りないという認識もある。そうした人たちが生まれてきたり、そういう活動が生まれてきたりする機会とか、必要な情報とかも不十分かも知れない。それらを行政としてどう作っていくか、どこまでできるかが次の計画で厳しく問われている。その中で、今日は中間支援に議論が集まった。多くの機能が中間支援というところに期待されている。ただ、それに限らず、むしろ本来地域づくりに関わる、まちづくりに関わる市民の活動というのが活発になっていく、行政との協働を通じてさらに発展をさせていく、そうした行政であるための市民参画というのが進んでいく、そういう発想の仕方で、この行動計画が出来上がっていく必要がある。その点でKPIをどうするか。どういう目標数値を設定するのか、少し悩みながら考えていただきたい。従来のアンケートが悪いのではなく、より良い客観的な数値というものも必要だが、一方で、アンケートで明らかなのは、市民が市民活動や自治会の

活動、こうした活動が低調になってきていると考えていることだ。市民参画もそれほど大きくは進んでいないと考えているかもしれない。そういうのが垣間見える部分があり、アンケートは無視できない。こういった問題を意識しながら、次の計画に向かって、どういう環境が必要か、あるいはどんな担い手が育っていくといいか、そして、どういう情報共有や、市民活動の支援があればよいか、具体的に落とし込んでいくのが次の作業である。これまでの施策の内容も踏まえ検討いただきたい。今日は枠組みの議論であり、一つ一つの細かな内容には入っていないが、貴重な意見をたくさんいただいた。これを踏まえ、これからの計画作りをしていただきたい。

5. その他

○令和6年度第1回栗東市市民参画等推進委員会での意見への回答

○市民団体支援制度の見直しについて

(委員長)

市民団体のヒアリング、それから市民団体支援制度、この三つの制度、来年度の予定を紹介いただいた。その見直しに際し、これまでの声も含め、それぞれの論点を出していただいた。これについて、委員から時間の許す限り議論いただきたい。

(委員)

各団体の意見としては理解するが、私もある団体の申請に関わった人間として、それぐらいのパワーは持ってもらいたいと思う。仲間と一緒にやろうとしているなら、自治振興課のアドバイスも得ながらやってもらいたい。

(委員長)

そういう団体側のパワーを引き出すということが重要ということである。

(委員)

ヒアリングは大変貴重な情報です。この計画のことを知っている団体が一つもなかったのは衝撃的で、これだけ知られてないのは、計画作りが、行政の中でやっていて、市民が蚊帳の外に置かれている状況がある。計画づくりが市民参画協働になっていない。それで果たしていいのか。改善策を考えていかないと、計画は絵に描いた餅で終わってしまう。

(委員長)

このヒアリング結果を見ると、計画策定の課題、策定プロセスの課題が見えてきた。計画内容もそうだが、一度改めて事務局でも検討いただきたい。

(委員)

ヒアリングで「知らない」と回答した団体は、当然計画を知らない。なぜなら、ヒアリングを実施したイベントに、私たちのような計画を知っている団体は行っていない。多分、アンケートをした団体は、新しいボランティア団体なので計画を知らないと思う。他の団体なら、きっと計画を知っている人は多い。私どもの太陽グループは生涯学習課と協働して、高齢者に折り紙を教える活動を1年間やってきた。楽しかったし学び合いになった。私達は高齢で、大きく動くことはできないが、自分たちで楽しんで、その楽しみを市民のコミュニティの中でやっている、少し人数が増えてきた。今後も、街の人と市と協働しながらやっていける。

(委員)

知らない人が多いのは、コミセンに計画の冊子が置いてあったが、多分、題名を見て漢字が並んでいる難しそうな資料かなと思ってしまったのではないか。名前や、広報の時間帯の工夫が必要。また、広報の中にチラシも入っていた。ポスターはあったかどうかかわからないが、あっても見る人はなかったと思う。それと、参加したなら負担があっても手伝っていただけるので、行くまでに難しいなと思って辞めてしまう人が多かったと思う。

(委員長)

ご存知の方はよく承知しているが、一方で、関心のない方、あるいは取っ付きにくい行動計画、計画作りということになり、自分たちのことではあるが見過ごされてしまう、そういうケースもあるという事であった。この辺り計画づくり、行動計画そのもののPRの仕方、市民への浸透の仕方、まだまだ工夫の余地がたくさんある。一方、活発な活動が進むと、高齢化とかいろんな問題がありながらも活発に続けていくと、成長をしていく、発展していくという姿も紹介いただいた。こういう姿を次の計画期間中にもっともっと増やしていけると良い。そういう計画づくりに繋げていただきたい。

(委員)

活動において、経費面で厳しく困った時に、自治振興課に相談したのがきっかけで、制度の申請に結びついた。なので、行動計画は全く認識していなかった。自治振興課のアドバイスはすごく良かった。親切に丁寧に教えてもらい、今も続けている。このように、自治振興課のアドバイスを丁寧にやってもらえると、団体は安心して活動できるし、継続性が維持できると思う。

(委員長)

自治振興課の役割はますます重要で、ここは頑張ってくださいという、これも次の計画に盛り込んでもらいたい。

その他、いかがか。予定の時間をオーバーしているが、大変充実した意見をいただいているので、時間を延長するがよろしいか。

来年度事業の予定、その課題も踏まえた次期のまちづくり条例行動計画の骨子ということで、内容に沿って大変貴重な意見をいただいた。しっかり参考にして、次年度の事業、また計画の内容をこれから検討いただきたい。

それでは本日の議事進行は以上とします。

(事務局)

委員長、スムーズな議事進行ありがとうございました。また委員の皆様、長時間にわたり貴重な意見をいただきありがとうございます。この計画は、今後修正する。その策定過程も内部で協議し、各課にも照会するので、大きく変わる可能性がある。その都度、委員に報告、提示するので、意見等いただきたい。

それでは閉会にあたり副委員長から一言挨拶をお願いします。

(副委員長)

本日は大変お忙しい中、また遠方より参加いただいた委員もおられ、心からお礼申し上げます。また活発な議論をいただいた。私も委員会とか審議会に出席しているが、これほど活発な議論はありません。市民への周知という議論がありました。栗東市は他市に先駆けて条例化した先進的なまちです。それが良いか悪いかは別にして、計画の推進とともに、条例の意義を周知いただくことにも力を入れていただきたい。いよいよ計画策定の本番になりますが、皆さんの協力をお願いし、閉会の挨拶とします。

(事務局)

ありがとうございました。これをもって、令和6年度第二回栗東市市民参画と推進委員会を終了とします。長時間にわたり議論いただきありがとうございました。

以上